

信貴山縁起絵巻をよむ

平群町立平群北小学校 中澤 哲也

1. 単元名 信貴山縁起絵巻をよむ

2. 単元の目標

- ・信貴山縁起絵巻について自分の中で課題を見つけ、効果的な調査方法で友だちと調べたり、まとめたりすることを通して絵巻に秘められた魅力を多面的に理解する。 (知識・技能)
- ・信貴山縁起絵巻を紹介するにあたって、調べたことをもとに絵巻の魅力について考えたり、表現したりする。 (思考・判断・表現)
- ・信貴山縁起絵巻を通して、地域に対する関心を高め、さらに絵巻についての魅力や発見はないか、意欲的に調べたりまとめたりしながら取り組む。 (主体的に取り組む態度)

3. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に取り組む態度
①ゲストティーチャーの取材を通して、絵巻の魅力について調べている。	①ゲストティーチャーから取材したことをもとに、絵巻の魅力について自分で考えたり、選んだりしている。	①絵巻に関心をもち、意欲的に調べたり、まとめたりしている。
②絵巻の魅力を多角的に理解している。	②絵巻の良さが読み手に伝わるように紹介文を推敲し、表現している。	②絵巻の良さを町の人たちにもっと知ってもらいたいという意欲をもって取り組んでいる。

4. 単元について

○教材について

信貴山は奈良県の北西部、生駒山地の南端から東に突き出たところにある。大和（奈良県）と河内（大阪府）の境に位置し、古くから霊山として信仰されてきた。標高437メートルの山の中の中腹に朝護孫子寺があり、ここに日本一の絵巻と言われる信貴山縁起絵巻が伝来された。現在は国宝に指定され奈良国立博物館に保管されており、朝護孫子寺では、江戸時代に複製されたものが展示されている。信貴山縁起絵巻は「山崎長者の巻」「延喜加持の巻」「尼君の巻」の三つの絵巻でできている。この三つの絵巻全てに登場するのが、絵巻の中心人物である命蓮（みょうれん）というお坊さんである。命蓮は、9世紀から10世紀前半にかけて実在した人物である。記録によれば、命蓮は若くして信貴山に登り、そこで修業をつんだという。

信貴山縁起絵巻の魅力は数多くある。まずは物語のおもしろさである。「山崎長者の巻」は、命蓮が法力を使って托鉢（たくはつ）の鉢を飛ばして米俵を収めた倉を空中に浮かせて、ずる賢い長者をこらしめる物語である。「延喜加持の巻」は、命蓮が信貴山に居ながら病に臥している宮中の天皇を治したという物語。「尼君の巻」は命蓮の姉が自分の弟を探しているときに、東大寺の大仏からお告げを受け、無事に姉弟が出会った物語である。約900年も前の作品であるが、まるで現代のSF小説のような展開が繰り広げられているのである。

次に絵巻に描かれた人々についてである。絵巻に登場する人々の表情が非常に豊かに描かれている。と

くに庶民の喜怒哀楽を描写する際の、誇張された顔形といきいきした表情は、平安の三大絵巻といわれる「源氏物語絵巻」「伴大納言絵巻」のなかでも明らかに傑出している。また登場人物の服装や建物など、当時の生活の様子が鮮明に表されている。

次に絵巻に描かれた風景描写についてである。「尼君の巻」では険しい谷あいでは、勢いよくほとばしる水流が、水底の岩を乗り越えて盛り上がりながら流れゆく様子が描かれている。「山崎長者の巻」では、紅葉や落ち葉といった秋の山が鮮やかに描かれている。こういった風景も物語を楽しむうえで欠かせない技術である。また鹿や犬など、動物も今にも動き出しそうに描かれている。

最後に絵巻ならではの表現技法である。現代のマンガと違い、一枚の巻物の中で場面ごとの区切りを自然に表現している。「山崎長者の巻」では、倉を追う長者たちの近景描写からしだいに秋の山中に向かって中景描写へと移り、ほとんど霧に覆われたのち、信貴山手前の山景の遠景描写へと変化する様子を中心に描いた画面で表している。こういった自然の空を描きながら、時間と空間を操っているのである。また、「尼君の巻」では東大寺大仏殿前で、尼君が何人も描かれている。これは同じ図の中に、異なった時間の出来事を重ねて書き込み、時間の経過を表現している「異時同図法」という表現技法を使っている。尼君が大仏の前で長時間命蓮を見つけるためのお告げを待っていたことが読み取れる。こういった巻物ならではの表現技法が絵巻の所々で利用されている。また、絵巻をめぐる謎も多く、誰がいつ描いたのか、どのような伝来経路をたどったのか、第一巻の最初は現状どのような場面から始まっていたのかなど未だに解明されていない。

○指導について

本単元は国語科の単元である「鳥獣戯画を読む」の教材を通して、信貴山縁起絵巻と児童を出会い、そのよさや特徴を読み解き、解説文を書くという構成を進めていく。

信貴山縁起絵巻について調べていくにあたって、地域の人材を活用していく。一つは、教育委員会の学芸員に来ていただき、絵巻についての概要や、学芸員の視点から見た絵巻のよさ、絵巻のことをさらに町民に知ってほしいことなどを解説していただく。もう一つは地域で平群町のよさを伝えている、観光ボランティアガイドの方々に来ていただき、児童の絵巻に対する疑問に答えてもらいながら、ボランティアガイドから見た絵巻の良さや、見所、今後絵巻がどうなっていってほしいかなどを解説していただく。

以上の二つのゲストティーチャーとの出会いから、児童がみんなに知ってほしい絵巻の見所を「鳥獣戯画を読む」を解説した高畑勲のように、解説文にしていきたい。

最後に町の観光産業課の協力を得て、平群の道の駅で自分の作成した解説文を、買い物に訪れた人に配布したり、絵巻について語ったりする時間を設けることでより発信することの喜びや意義を感じてほしい。

5. ESDとの関連

○学習を通して主に養いたいESDの視点

・信貴山縁起絵巻について読み解いていく中で、学芸員の方の視点で絵巻の良さを知ったり、ボランティアガイドの方の視点で絵巻の良さを知ったりと一つの事象に様々な良さが見いだせることについて理解する【多様性】

・学芸員の方やボランティアガイドの方々が地域に伝えてきた、絵巻の魅力を自分たちも発信していきたいという思いを育む。【責任性】

○学習を通して主に育てたいE S Dの資質・能力

⑤協働的問題解決力: ゲストティーチャーと共に、絵巻が地域の方々に知ってもらうためにはどうすればよいか考える。

○E S Dで育てたい価値観

①世代間の公正: 信貴山縁起絵巻の良さを将来世代の人たちへも伝えていきたい



○貢献できるSDG s

8: ボランティアガイドの方々との交流を通じて、ボランティアで地域の素晴らしさを伝えていく意義を学ぶ。

11: 国宝である信貴山縁起絵巻の啓発を通して保護・保全に関わる努力をする。

6. 学習活動の概要

全10時間

主な学習活動	学習への支援	◇評価・備考
<p>1. 「鳥獣戯画を読む」を通して、絵巻の素晴らしさやおもしろさに気付く。(国語科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本文化として注目されているアニメの起源なんだ。 ・吹き出しがなくても動物の表情から何を言っているのかわかってくるね。 <p>2. 国宝信貴山縁起絵巻について知る。</p>	<p>○筆者である高畑勲がどのような観点で鳥獣戯画を捉えたか抑える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵巻の仕組み ・動物の表情 ・日本の漫画やアニメーションの起源 	<p>ア①</p>
<p>3. 学芸員の方から信貴山縁起絵巻について話を聞く。</p>	 <p>よく見ると、ひとりひとりの表情が違うな。</p> <p>気になった場面に付箋をはろう。</p>	<p>ア①</p>
<p>この場面はどんなお話なんだろう？</p> <p>この絵巻物は約900年の間、平群町で大切に守られてきたんだよ。</p> <p>家の人にも教えてみようかな。</p>	 <p>自分の町にこんなすごい宝物があるなんてびっくりした！</p> <p>より具体的なストーリーが見えてきた。</p>	

<p>4. ガイドさんとの出会い。 ガイドさんにとっての絵巻の良さやガイドのやりがい等について聞く。</p>	<p>○班ごとにガイドに入っただき、少人数で交流できるようにする。</p>	<p>ア①</p>
	<p>この場面をもっと知りたいのですが…。</p>	<p>当時の生活の様子も絵巻から見えてくるぞ。</p>
<p>おもしろいところに目を付けたね！</p>		
<p>5. 信貴山縁起絵巻について、自分の紹介したい部分を見つけたり、選んだりする。</p>	<p>○学芸員や、ボランティアガイドさんたちが紹介してくれた良さから選んだり、自分で考えたりする。</p>	<p>ア② イ①</p>
<p>6. 自分で選んだ場面の解説文を書く。</p>	<p>○絵巻の概要、選んだ場面の解説、絵巻に対する想い、の三段落構成で書く。</p>	<p>イ② ウ①</p>
<p>7. 道の駅で紹介文を掲示したり、解説したりしながら信貴山縁起絵巻の良さを伝えていく。</p>	<p>この絵巻の良さをもっとたくさんの人に知ってもらいたいです！</p>	
		

7. 実践による成果

今回の実践による成果を次の二点で振り返る。一つ目は自治体や地域との連携の有用性について、二つ目に児童の変容とその要因についてである。

一つ目の自治体や地域との連携の有用性についてである。今回の実践を行うにあたって、平群町教育委員会の学芸員の方、平群町観光ボランティアガイドの方々、平群町役場の観光産業課の方々との連携があった。授業者自身もこの学習に取り組むにあたり、信貴山縁起絵巻に関する自主学習を進めていたが、児童がより専門的な知識を学ぶために、学芸員の知識は大変重要な資料であった。絵巻の概要だけでなく、国宝の意味や、それを守ることの大切さ、難しさなど、学芸員ならではの見解を語っていただくことができた。ボランティアガイドの方々には7名も来ていただくことができた。児童3~4人につきガイドが1人入ってもらい、近い距離で意見を聞いたり、質問をしたりすることができた。また、ガイドの方々もこ

の交流の数日前に自ら絵巻の勉強会を開かれ、具体的な知識や資料などを用意してくださっていた。観光産業課の方には、児童が書いた絵巻を地域の方々に発信する機会を準備していただき、10名の児童が平群道の駅で自分の選んだ絵巻の一場面を紹介することができた。授業者だけの力ではこれだけの実践に至らなかったらうと考える。地域人材を有効的に授業に取り入れることで、児童にとってより学習を深めることができるのではないだろうか。

二つ目に児童の変容とその容認についてである。導入時にはほとんどの児童は信貴山縁起絵巻について知識がない状態であった。振り返りにも「初めて知った」との声が多く、また「どんな内容なのか詳しく知りたい」と、絵巻に関心をもった声も多かった。学芸員の方との学習後には「平群に国宝があるなんてびっくりした」という児童や「平群にこんなすごいものがあるなんて、なんかうれしい」と自分の地域の良さに驚き、喜ぶ児童が増えていた。また、ボランティアガイドの方々と交流の後に、「この絵巻のことをもっと地域の人に知ってもらいたい」「家族の人に教えたい」といった、文化の継承に意欲をもつ児童が増えた。

8. 考察

① ESDの視点について

・学芸員とボランティアガイドとの交流後に「絵を見るだけじゃわからないようなことも深く教えてもらうことができた。」「一番心に残ったことはすごく昔に、あんな金色の絵の具やあんな色鮮やかな色があったことが一番心に残りました。」といったような振り返りを多く見受けることができた。これは漠然と見ているだけでは気づかない絵巻の多様な魅力をゲストティーチャーとの交流を通して児童が気づくことができたのではと考える。また、「友達とも違う意見が分かって、いい時間だった。」という振り返りから、友だち同士の交流によっても様々な視点を見出せることができたのではないかと考える。【多様性】

・有志で募集した道の駅の発表者の中には、普段授業中にほとんど発表しない児童らが自ら申し出てくれるなどの姿を見ることができた。この要因として、自分たちが知らなかった町の良さを改めて知り、それを大切に保存、継承している学芸員の方やボランティアガイドの方々と交流によって、児童の「心が動き」より学習に主体的に取り組むようになり、自分も同じ町民として絵巻を後世に伝えていきたいという責任性が育まれたのではないかと考える。また、児童が書いた解説文には「私はこの絵巻物を日本はもちろん、世界中にも広げていきたい。」「この絵をずっと大切にし、平群町にある他文化財も私達が守っていく必要がある。」という「大切に」「守る」「語り継ぐ」といった、自分事として置き換え述べられていることが多く読み取ることができた。【責任性】

② 学習を通して育てたい ESDの資質・能力

・ボランティアガイドの方々の多くは高齢者であり、児童にとっては祖父母に当たる年齢の方が多かった。そういった異年齢の交流であったが、信貴山縁起絵巻の魅力を探したり、気づいたりするといった共通の課題をもって取り組んでいる姿が見受けられた。また、信貴山縁起絵巻の魅力をさらに地域に認知してもらうために町の観光産業課と連携し、道の駅で児童自身の言葉で絵巻の魅力を地域の方々に発信することができたと考える。(協働的問題解決能力)

③ ESDで育てたい価値観について

・学習を終えて、児童の感想の中に「この絵は870年も大切に保存されてきた。だから次は私達が受け継

いでいく番だと思った。」という記述が見られた。また、ボランティアガイドへの手紙の中には、「ぼくたちも平群の宝物をこれからも10年20年100年と守っていきたいです。」という文化の継承に関心を持つ記述が見受けられたことから、世代内の公正と世代間の公正の価値観を育むことができたのではないかと考える。

○SDGsとの関連について

・本実践において、信貴山縁起絵巻の解説文を書いたり、道の駅で絵巻の魅力を地域に発信したりする活動を通して、地域の文化財の保護・保全に関わる姿勢が多く見受けられた。また、道の駅の発表を聞いてくださった地域の方々からは、「自分たちの町のことなのに全く知らなかった。」「とても詳しく調べられていてこちらが勉強になった。」などという声を聞くことができ、地域の方々が改めて地域の良さに気付くきっかけになった実践だったのではないかと考える。【SDGs 11】

《参考文献》

- (1) 泉武夫(2004)『躍動する絵に舌を巻く信貴山縁起絵巻(アートセレクション)』
- (2) 信貴山縁起絵巻図録